台大日本語文研究第 35 期
2018 年 6 月，頁 87-112
2018-03-21 收稿，2018-05-11 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP.201806_(35).0004

關於第二人稱與第三人稱之間的視點序列
—以「てやる／てくれる」句型爲例—

古賀悠太郎*

摘要

本文就以授受補助動詞「てやる／てくれる」句型為例，考察第二人稱與第三人稱之間有無因人稱導致說話者較容易將自己的視點放至第二人稱這一問題。首先，再次確認「てやる／てくれる」句型中說話者視點所在的位置，並明確了「てやる」表示視點在「施事」的位置，而「てくれる」表示視點在「受益者」的位置。在這基礎上，從「てやる／てくれる」的例句中將第二人稱和第三人稱以施事、受事、受益者的身份參與（而第一人稱不參與）的例句先分爲兩種（第二人稱爲施事的例句和第三人稱爲施事的例句），並且進一步細分為四種，觀察了在這四種場合裏「てやる」句型和「てくれる」句型能否成立。根據上述的考察，得出了在「てやる／てくれる」句型中說話者確實容易將自己的視點放至第二人稱的結論。

關鍵詞：第二・第三人稱與視點、「てやる／てくれる」句型、施事、受事、受益者

* 靜宜大學日本語文學系助理教授

臺灣大學學術期刊資料庫

On viewpoint hierarchy between 2nd and 3rd person : A case of "*-te yaru* / *-te kureru*" sentences

KOGA Yutaro *

Abstract

Which is more likely to take a speaker's viewpoint, 2nd or 3rd person? This paper considers this question in terms of sentences with the benefactive auxiliary verbs "*-te yaru* / *-te kureru*". First, I make clear that a speaker's viewpoint is at the beneficiary in "*-te kureru*" and at the agent in "*-te yaru*". Next, "*-te yaru* / *-te kureru*" sentences where both the 2nd and 3rd person participate are classified broadly into two (between 2nd-person and 3rd-person agents), and more finely into four types. Acceptability of "*-te yaru*" and "*-te kureru*" are judged in each type. As a result, this paper argues that 2nd person is more likely to take a speaker's viewpoint than 3rd person in "*-te yaru* / *-te kureru*" sentences.

Keywords: 2nd/3rd person and viewpoint, *-te yaru* /*-te kureru* sentence, agent, patient, beneficiary

* Assistant professor of Providence University

臺灣大學學術期刊資料庫

二・三人称の間の視点ハイアラーキーについて
――「てやる／てくれる」文の場合――

古賀悠太郎*

要旨

本稿では、授与補助動詞「てやる／てくれる」文を対象として、二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいと言えるのかという問題について考察する。まず、「てやる／てくれる」の視点のありかについて、動作主、被動作主、受益者の三者のうち、「てやる」は動作主に、「てくれる」は受益者に話し手の視点があるということを確認する。その上で、「てやる／てくれる」文のうち二人称と三人称の両方が参与する例を大きく二つ（動作主が二人称の例と、動作主が三人称の例）に、より細かくは四つに場合分けをし、それぞれの場合において「てやる」と「てくれる」が適格になるか否かを観察する。その結果、「てやる／てくれる」文においては二人称には三人称よりも視点が置かれやすいという結論を得た。

キーワード：二・三人称と視点、「てやる／てくれる」文、動作主、被動作主、受益者

* 静宜大学日本語文学科助理教授

臺灣大學學術期刊資料庫

二・三人称の間の視点ハイアラーキーについて
――「てやる／てくれる」文の場合――

古賀悠太郎

一、はじめに

久野（1978）が提案している数々の「視点」に関する原則の中で、「発話当事者の視点ハイアラーキー」は重要度が最も高いものの一つである。久野は同原則を次のように規定している（久野 1978:146）。

> 話し手は、常に自分の視点をとらなければならず、自分より他人寄りの視点をとることができない。
> 1＝E（一人称）＞E（二・三人称）[1]

つまり、ある出来事について言語化する際に、一人称（話し手）自身もその出来事に参与しているならば、話し手は必ず、二・三人称ではなく一人称に視点を置いてその出来事を言語化しなければならないということである（図 1）。



図 1 一人称には二・三人称よりも話し手の視点が置かれやすい[2]

この原則によって、たとえば、授与動詞「やる（あげる）／くれる」文で「やる」の主語（モノの与え手）、「くれる」の与格目的語

[1] E はある名詞（句）x に対する話し手の共感（Empathy）＝自己同一視化の度合い、すなわち話し手が x にどの程度視点を寄せているかを表す（久野 1978：134）。
[2] 図 1 で「Ⅰ」、「Ⅱ」、「Ⅲ」はそれぞれ「一人称」、「二人称」、「三人称」を表す。

臺灣大學學術期刊資料庫

（モノの受け手）の位置は二・三人称よりも一人称が占めやすい理由が説明できる。

(1) 私が太郎にお金をやった。
(2) 太郎が私にお金をくれた。
(3) *太郎が私にお金をやった。
(4) *私が太郎にお金をくれた。

授与動詞「やる／くれる」の視点制約（久野 1978：141-142）によれば、「やる」は主語（モノの与え手）に、「くれる」は与格目的語（モノの受け手）に視点があることを示す（図 2）。



図 2 「やる」（左）と「くれる」（右）の視点のありか

したがって、上の(1)の「やる」と(2)の「くれる」はいずれも一人称に視点があることを示すので発話当事者の視点ハイアラーキーに違反しないが、(3)の「やる」と(4)の「くれる」はいずれも三人称（太郎）に視点があることを示すので、これは発話当事者の視点ハイアラーキーに違反しているということになる。

しかしこの原則は、一人称には二・三人称よりも視点が置かれやすいということを明確に示している一方で、二人称と三人称の関係については何も規定していない。したがって、二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいのかという疑問が生じることになる（図 3）。

臺灣大學學術期刊資料庫



図 3 二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいのか

この問題はいくつかの文法項目においてはとりわけ重要度が高いが、その一つが授与補助動詞「てやる（てあげる）／てくれる」文である。

「てやる／てくれる」文は視点が比較的強く関与する項目である。そのため、文において話し手の視点のありかを示す位置・要素（たとえば、「やる」ならば主語の位置を占めるモノの与え手、「くれる」ならば与格目的語の位置に置かれるモノの受け手）を占めやすいのはどのような存在であるかということが、文を作る上で重要になる。そして、上位の人称である二人称の方が三人称よりもその位置を占めやすいということは十分にあり得ることである。しかし、慎重に検討することなく安易にこのように結論づけてよいわけではない。

また、「てやる／てくれる」文の場合、「てやる」と「てくれる」はそれぞれ文中のどの部分・要素に視点があることを示すのかが十分に明確になっているとは言い難く、そのことがこの問題について考察することを困難にしている。

そこで本稿では、「てやる／てくれる」文を対象として、二人称と三人称の間の視点ハイアラーキーについて、すなわち二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいのかという問題について検討し、次のことを主張したいと思う。

【本稿の主張】

久野（1978）が「聞き手と第三者の優位関係に就いては、諸言語の文化的背景によって、ヴァリエイションがあることが予想される」（p.315）と述べているように、上位の人称であるからといって必ず

臺灣大學學術期刊資料庫

しも二人称の方に視点が置かれやすいとは限らない。しかし、「てやる／てくれる」文においては、二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいと言うことができる。

以下、本稿の議論は次のように構成される。まず第二節では、二人称と三人称の関係について触れられている先行研究をおさえる。次に第三節では、具体的な考察に入る準備として、授与補助動詞「てやる」と「てくれる」はそれぞれ話し手の視点がどこに置かれていることを示すのかを慎重に確認する。その上で、第四節では、「てやる／てくれる」文を例として、二人称は本当に三人称よりも話し手の視点が置かれやすい存在であると言えるのかどうかを検討する。具体的な考察方法は、「てやる／てくれる」文のうち二人称と三人称の両方が参与する例を、大きくは動作主が二人称の例と動作主が三人称の例の二つに、より細かくは四つに場合分けをし、それぞれの場合において「てやる」と「てくれる」が適格になるか否かを観察するというものである。最後に第五節では、前節（第四節）までで得られた結論と、授与本動詞「やる／くれる」文が有する特徴との関係について、構文の拡張という観点から考察を深める。

なお、宮崎・上野（1985）が「視点という言葉はふつう 2 つの意味で用いられる。1 つは、どこから見ているかというときの“どこ”をさす場合であり、もう 1 つは、どこを見ているかというときの“どこ”を指す場合である[3]」（p.3）と述べているように、「視点」という術語は少なくとも「視座＝どこから見ているか」と「注視点＝どこを見ているか」の二つの意味で用いられる。ただし、久野（1978）における「視点」とは「視座」の意味であり、「X 寄りの視点」、あるいは「X に視点が置かれている」、「X に視点がある」という表現は「話し手が当該の出来事を他の存在よりも X に近い立場から見ている」ということを意味していると思われる。そこで本稿でも、以

[3] 強調も宮崎・上野による。ただし、宮崎・上野は下線ではなく傍点を用いている。

臺灣大學學術期刊資料庫

下、視点という語をこの意味で用いることにする。

二、先行研究

山口（2002）は、「およそ人称の対立は［1 人称］対［非 1 人称］、および［1・2 人称］対［非 1・2 人称］、のふたつの対立、もしくはその組み合わせによって構成されているようである」、「世界を人称という概念で切り分けるにあたって、分水嶺となるのは聞き手（2 人称）を含めるか否か、という基準なのである」と指摘している（p.61）。このように、言語の研究において二人称の扱いというのは非常に重要であり、それだけに慎重を期さなければならない。

では、三人称との関係も踏まえつつ、われわれは二人称をどのように扱い、位置づけるべきなのだろうか。二人称と三人称の関係について、主な先行研究の立場は次の通りである。

まず、Shibatani（2003）は、行為の方向が「1st＞2nd＞3rd」の Parson hierarchy（人称の階層、p.276）に逆行する場合は「てくる」、「てくれる」などで文法的に明示する必要があるとしている。

(5) ケンが僕にボールを｛*投げた／投げてきた｝。

（Shibatani 2003：273）

「ケンがボールを投げる」という出来事において、「ボールを投げる」という行為は三人称であるケンから一人称である「僕」に向かう。つまり、行為の方向は 3rd→1st であり、これは Parson hierarchy に逆行する。そのため、「投げた」は不適格となり、「投げてきた」、あるいは「投げてくれた」のように「てくる」、「てくれる」などで Parson hierarchy の逆行を修正しなければならないというわけである。

この伝でいくと、行為の方向が 3rd→2nd である場合にも「てくる」、「てくれる」などによる文法的な明示が必要であり、反対に行為の方向が 2rd→3nd である場合には「てくる」、「てくれる」などは必要

臺灣大學學術期刊資料庫

ないということになりそうである。しかし、Shibatani は「2nd＞3rd」の階層が本当に存在するか否かについて詳細な検討をしているわけではない。にもかかわらず、これを前提として行為の方向を表す動詞（「てやる／てくれる」、「ていく／てくる」など）の用法についての議論がなされている。

次に、城田（1996）は、「【内】話し手＞（話し手側の第 3 者）＞聞き手＞第 3 者【外】」という内外の関係を前提とした上で「（て）やる／（て）くれる／（て）もらう」、「（て）行く／（て）来る」の用法を分析しているが、やはり、聞き手は本当に第 3 者よりも内の存在であると言えるのか否かについては検討がなされていない。そのためか、城田が挙げている例のうちいくつかは再検討の余地があるように思われる。

(6)（お前はお通を）脅かしてやったぞ。
（城田 1996：7、表記一部改）

(7) 君が太郎の家に行く。（城田 1996：9、表記も原文の通り）

上の二例に対する城田の考えはおおよそ次の通りである。すなわち、(6)の「お前がお通を脅かす」という出来事では、「脅かす」という行為は聞き手の「お前」から第 3 者のお通に向かう。また、(7)の「君が太郎の家に行く」という出来事では、聞き手の「君」が第 3 者の太郎のもとへ向かう。つまり、いずれも「【内】聞き手→第 3 者【外】」の行為であるから、行為の方向が「内→外」であることを示す「（て）やる」、「（て）行く」が選択されているのである。

しかし、これらの例は、「（て）やる」、「（て）行く」を、行為の方向が「外→内」であることを示す「（て）くれる」、「（て）来る」に入れ替えても依然として適格である。

(8) お前がお通をおどかしてくれたのか。
(9) 君も太郎の家に来たようだね。

臺灣大學學術期刊資料庫

つまり、「聞き手→第 3 者」の行為であっても、行為の方向が「外→内」であることを示す「(て) くれる」、「(て) 来る」などが使用できる場合もあるということであり、少なくとも現時点では、二人称は必ずしも三人称より内の存在（優先的に話し手の視点が置かれる存在）になると言い切ることはできない。

また、奥津（1979）は、日本語の授受動詞「やる／くれる／もらう」に関する英語、朝鮮語との対照も兼ねた研究であるが、「聞き手と第 3 者とでは、聞き手が身内になることが多いが、これも絶対的なものではない」（p.5）と述べて、話し手にとって二人称は本当に常に三人称よりも身内の存在であると言うことができるのか、結論を出すことを控えている。

それから、第一節でも触れたが、久野（1978）も、発話当事者の視点ハイアラーキーを規定した箇所（p.146）に対応する巻末注の部分（p.315）で、「少なくとも日本語に関しては、聞き手と、第三者との間の共感度関係は、自動的には定まらない。英語でも同様である。聞き手と第三者の優位関係に就いては、諸言語の文化的背景によって、ヴァリエイションがあることが予想される」と述べており、少なくともこの時点では迷いを見せている。

このように、二人称と三人称の関係について、従来の研究は、二人称には当然ながら三人称よりも話し手の視点が置かれやすいと考えているもの（Shibatani 2003、城田 1996）と、二人称をどう扱うべきかに関して迷いを見せて結論を控えているもの（奥津 1979、久野 1978）に大別される。

三、「てやる」と「てくれる」の視点のありか

第一節でも触れたように、そもそも「てやる」と「てくれる」はそれぞれ文中のどの部分・要素に話し手の視点があることを示すのかが明確ではない。したがって、まずはこれを明確にしておく必要がある。なぜなら、ある「てやる／てくれる」文では文中のどの部

臺灣大學學術期刊資料庫

分・要素に視点があるのかが明確でなければ、その文が二人称には三人称よりも視点が置かれやすいことを示すのか否かを判断することはできないからである。

この点について、久野（1978）は、「てやる」は主語に、「てくれる」は非主語にそれぞれ視点があることを示すと規定している（p.152）。そして、次の(10)のような文について、花子寄りの視点、文外の要素「私」寄りの視点、またはその両方の三つの可能性があるとしている（p.153）。

(10) 太郎ハ花子ノ勉強ヲ手伝ッテクレタ。　（久野 1978：153）

しかし、花子は「手伝う」という動作の被動作主であり、「私」はこの動作、あるいは「太郎が花子を手伝う」という出来事の受益者である。つまり、花子と「私」とではこの出来事における役割が全く異なる。にもかかわらず、ともに文の主語の位置には置かれないというだけで両者を「非主語」と一括りにしてしまうのは問題があると言えよう。

そこで本稿としては、まずは被動作主と受益者を区別するところから始めたい。その結果、「てやる／てくれる」文で表される出来事に参与する存在は動作主（主語）、被動作主、受益者（以上、文中での位置は非主語）の三者であるということになる（以下、動作主はAgentの頭文字を取って「A」、被動作主はPatientの頭文字から「P」、受益者はBeneficiaryの頭文字から「B」と表記する）。

ただし、山田（2004：29-32）が指摘しているように、PとBは同一の存在である場合とそうではない場合がある。山田は、「てやる／てくれる」文のPとBが同一である場合を「直接ベネファクティブ」、同一ではない場合を「間接ベネファクティブ」と呼んでいる。次の(11)は直接ベネファクティブ、(12)は間接ベネファクティブの例である。

臺灣大學學術期刊資料庫

(11) あの時期の花子は受験の不安でいっぱいだった。そんな時、太郎が花子の勉強を手伝ってくれた。(P, B＝花子)

(12) 先生が私の代わりに息子を叱ってくれた。(P＝息子、B＝私)

では、授与補助動詞「てやる」、「てくれる」はそれぞれ話し手の視点が A、P、B のどこにあることを示すのだろうか。

まず、「てやる」について。

「てやる」については、久野 (1978) が「てやる」は主語寄りの視点を示す (E (主語) ＞E (非主語)) と規定しているように、主語の位置を占める動作主 (A) に視点があることを示すと考えてよい。その証拠に、「てやる」文は A の位置を一人称が占める場合には適格となるが((13)-(15))、A の位置を一人称以外が占め、且つ P や B が一人称である場合には不適格となる ((16)、(17))。

(13) 私が走ってやった。(A＝私)

(14) 私が太郎のために走ってやった。(A＝私、B＝太郎)

(15) 私が太郎を褒めてやった。(A＝私、P, B＝太郎)

(16) *太郎が私のために走ってやった。(A＝太郎、B＝私)

(17) *太郎が私を褒めてやった。(A＝太郎、P, B＝私)

このように、「てやる」は視点が A (動作主) にあることを示すと考えて間違いない (図 4)。

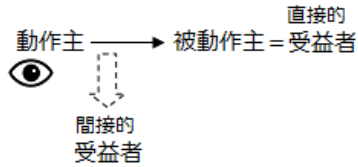


図 4 「てやる」文における話し手の視点

次に、「てくれる」について。

臺灣大學學術期刊資料庫

久野（1978）は、「てくれる」は非主語寄りの視点を示す（E（非主語）＞E（主語））と規定した。しかし、すでに指摘した通り、ここで言う「非主語」には被動作主（P）と受益者（B）の両方が含まれる。では、「てくれる」はPとBのどちらに視点があることを示すのか。

ここで、次の(18)のようにBが一人称であればたとえPが不在でも「てくれる」文は適格となるが、(19)のようにBが不在ならば「てくれる」文は不適格と判断されるという事実に注目したい。

(18) 太郎が（私のために）走ってくれた。（P＝∅、B＝私）

(19)（太郎も「私」も「先生が太郎を叱る」という出来事について恩恵的であるとは感じていない）
#先生が太郎を叱ってくれた。（P＝太郎、B＝∅）[4]

このことから、「てくれる」は視点がB（直接的、間接的受益者）にあることを示すと考えることができる（図5）。

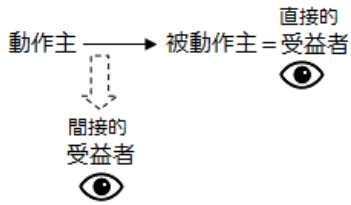


図5 「てくれる」文における話し手の視点

もちろん、次の(20)のように、PとBが同一の存在である場合（直接ベネファクティブ）も多い。

(20) 先生が私を褒めてくれた。（P, B＝私）

[4] 「#」は当該の文が（ ）内に示した状況下では不適格であることを示す。

臺灣大學學術期刊資料庫

そのような場合であっても、この「てくれる」はあくまで視点が（直接的）受益者（B）である「私」にあることを示すのであり、その「私」がたまたま被動作主（P）でもあるというだけのことである。決してその反対ではない。

以上、「てやる」は視点が A（動作主）にあることを示し、「てくれる」は視点が B（受益者）にあることを示すということを確認した。

四、二人称・三人称と話し手の視点

本節では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ)」、「名大会話コーパス」、TV ドラマの台詞などから収集した例に基づいて、授与補助動詞「てやる／てくれる」文において二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいと言えるのか否かについて検討する。

（一）分析方法

分析方法は以下の通りである。

第三節の考察によって、「てやる」は A（動作主）に、「てくれる」は B（受益者）にそれぞれ話し手の視点があることを示すということ、そして、P（被動作主）と B（受益者）は同一の存在である場合とそうではない場合があるということが確認された。

これを踏まえて、本節では、まず、「てやる／てくれる」文のうち二人称と三人称の両方が A、P、B として参与し、且つ一人称が参与しない例を次の表 1 のように①～④に場合分けする。そして、①～④のそれぞれの場合において「てやる」、「てくれる」が適格となるか否かを観察することで、二人称には三人称よりも視点が置かれやすいのかを検討する。

臺灣大學學術期刊資料庫

表 1 二人称と三人称の両方が参与する出来事の場合分け[5]

	A	B	P	説明
①	あなた	太郎	太郎	「あなた」の「太郎」に対する動作・行為が「太郎」にとって恩恵的
②			太郎以外	「あなた」の「太郎」を対象としたものではない動作・行為が「太郎」にとって（も）恩恵的
③	太郎	あなた	あなた	「太郎」の「あなた」に対する動作・行為が「あなた」にとって恩恵的
④			あなた以外	「太郎」の「あなた」を対象としたものではない動作・行為が「あなた」にとって（も）恩恵的

つまり、まずは A＝二人称の例（①、②）と A＝三人称の例（③、④）に分類し、それぞれを更に P と B が同一の存在である場合（①、③）とそうではない場合（②、④）に分けるということである。

より具体的には、①は「あなた」が「太郎」を褒めたため「太郎」は嬉しかったという場合、②は「あなた」が「二郎」を褒めたことが「太郎」にとって嬉しかったという場合、③は「太郎」が「あなた」を褒めたため「あなた」は嬉しかったという場合、④は「太郎」が「二郎」を褒めたことが「あなた」にとって嬉しかったというような場合を指す。

なお、次の(21)、(22)のように、誰かの動作・行為が三人称と同時に一人称（話し手）にとっての恩恵を表す場合や、一人称（話し手）側の三人称にとっての恩恵を表す場合もある。

(21) 太郎が二郎を手伝ってくれて、私も助かった

(22) 太郎が（私の）弟のことを必死に励ましてくれて、私も嬉し

[5] 表 1 で、「あなた」は二人称、「太郎」は三人称の代表である。

臺灣大學學術期刊資料庫

かった。

これについては、前者は本質的には一人称（話し手）にとっての恩恵を表すものであり、後者は受益者である「(私の）弟」は一人称（話し手）に属する存在であることから、形式的には三人称でも「三人称」ではなく「一人称に準ずる存在」として扱われるべきであると考える。したがって、いずれも本稿の考察対象にならない。とはいえ、後に挙げる(39)、(40)、(50)などが示すように、人称と視点の問題を論じるにあたり、一人称を完全に切り離して二人称と三人称だけを考察対象とすることは非常に難しいということは留意しておく必要がある。

（二）「てやる」

「てやる」は視点がA（動作主）にあることを示す。したがって、もし二人称には三人称よりも視点が置かれやすいのならば、A＝二人称の場合（①、②）には「てやる」文は適格となり、A＝三人称の場合（③、④）には不適格となるはずである。そして、実際にその予想の通りになっている。

【①の例】[6]

(23) 瞳：（照代は）悔しいだけなのよ、貴美子に大場先生取られたから。

照代：取るとか取られるとか、大場先生はそげな対象じゃなかよ。うちは大場先生を尊敬……

（中略）

瞳：じゃあ（あなたが）（大場先生を）祝福してあげれば？尊敬してた先生が幸せになったんだから。（A＝あなた、P, B＝大場先生）（TV ドラマ「君の瞳に恋してる！」）

(24) 莉香：後悔してる？里美ちゃんのこと。

完治：全然してないっつったら嘘になんだろう。とりあえず

[6] 以下、本節で示す例文中の下線は全て筆者による。

臺灣大學學術期刊資料庫

オッケーしてくれたのをこっちから諦めたんだからさ。

莉香：そこが完治のいいとこだよ。里美ちゃんの気持ち一番に考えてあげて。（A＝完治（聞き手）、P, B＝里美）

（TV ドラマ「東京ラブストーリー」）

(25)（あなたも）PC ばっかりしてないで、子供かまってあげなよ。（A＝あなた、P, B＝子供）　（Yahoo！知恵袋（BCCWJ））

【②の例】

(26) 小百合さんが母親に「（お母さんが）お父さんのところに行ってあげて」というとき、心の底では「私のそばにいて私のことを心配してほしい」と叫んでいたのかもしれない。（A＝お母さん（聞き手）、B＝お父さん）

（斉藤浩子『単身赴任 家庭と職業のはざまで』（BCCWJ））

(27) そして（君が）君を幸福にしてくれる人のために出来る事をしてあげて。（A＝君、B＝君を幸福にしてくれる人）

（黒澤あお『パステル・カラー』（BCCWJ））

(28) 倉本：フン、あんなもんどだい無茶苦茶や。米屋が赤十字みたいな真似出来るかいな。

通仁：僕は何もただであげろとは言ってませんよ。仕入れた時の原価で（あなたが）（あの人に）（米を）分けてあげたらどうかと言ってるんだ。（A＝あなた、P＝米、B＝あの人）

（小幡欣治『熊楠の家・根岸庵律女』（BCCWJ））

【③の例】

(29) *太郎が君を褒めてやって、さぞかし嬉しかっただろうね。（A＝太郎、P, B＝君）（作例）

臺灣大學學術期刊資料庫

【④の例】

(30) *太郎が二郎を殴ってやって、君もさぞかしすっきりしただろうね。（A＝太郎、P＝二郎、B＝あなた）（作例）

(31) *太郎くんが早く立派に成長してやったら（あなたも）嬉しいですね。（A＝太郎、P＝∅、B＝あなた）（作例）

したがって、少なくともここまでの段階では、二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいと言うことができそうである。

（三）「てくれる」

「てくれる」は視点が B（受益者）にあることを示す。したがって、二人称には三人称よりも視点が置かれやすいのならば、「てくれる」文は A＝三人称、且つ B＝二人称の場合（③、④）には適格となり、A＝二人称、且つ B＝三人称の場合（①、②）には不適格となることが予想される。

まず、③、④の場合を先に見てみよう。

【③の例】

(32)「また、教えるよ」のひと言が聞けたら、彼があなたを特別扱いしはじめてくれた証拠だと考えて間違いなさそうです。（A＝彼、P, B＝あなた）

（浦野啓子『なぜか「モテる女」の共通点』（BCCWJ））

(33)（阿部さんに対して）家族でしょう？阿部さんの心の「穴」を埋めてくれるのは…（A＝家族、P, B＝阿部さん（聞き手））

（今西乃子『ちかい家族とおい家族』（BCCWJ））

(34) F098：わたしは最初、ハンドアウトだから、発表者は、（原稿を）読んでたら（聴衆が）（あなたの話を）聞いてくれないから、文にしないほうがいいって言ったんですよ、最初は。（A＝聴衆、P, B＝あなた）（「名大会話コーパス」DATA035）

臺灣大學學術期刊資料庫

【④の例】

(35)（旦那さんが）動物園に行っても、自分が本気で興味を持ちながら子供にいろいろ教えてくれるんでしょう。（あなたにとって）ありがたいじゃないですか。（A＝旦那さん、P＝子供、B＝あなた）　（Yahoo！知恵袋（BCCWJ））

(36) F098：＊＊＊ったらね、それが一緒になっちゃって、〈笑い〉まちがえちゃったわけ。そして、変えようと思って切符を入れたらそれはもう使われてますからだめですって言われちゃってね。

F032：うん、そいでどうした？

F098：え、そりゃあもう交渉したわよ。〈笑い〉（ああ）そうよ、そこであきらめたら、あのー。

F032：そいで、（駅員さんは）（あなたたちのために）（然るべき処置を）やってくれた？（A＝駅員、P＝∅、B＝あなたたち）　（「名大会話コーパス」DATA009）

(37) 祖母様も貴方の結婚を楽しみにされていたのではないでしょうか。（祖母様は貴方のために）貴方の幸せを誰よりも祈ってくれていると思いますよ。（A＝祖母様、P＝∅、B＝貴方）　（Yahoo！知恵袋（BCCWJ））

(38) F098：何時間分ぐらい録ったの？この高校生っていうのは。

F032：高校生結構あるよ。（うん）高校生をもうちょっといじくんないとこれもったいないなと思って。学生が、ほとんど。

F098：うん、（学生たちが）（あなたの代わりに）（録音を）文字化してくれたわけ？（A＝学生たち、P＝∅、B＝あなた）　（「名大会話コーパス」DATA009）

このように、③、④の例では、二人称には三人称より視点が置かれやすいと仮定した時の予想と一致する。

次に、①、②の例を観察する。

臺灣大學學術期刊資料庫

【①の例】

(39) お前が太郎にお金を貸してくれたのか。（A＝お前、P, B＝太郎）（作例）

【②の例】

(40) 君が二郎を殴ってくれたから、太郎もすっきりしたみたいだよ。（A＝お前、P＝二郎、B＝太郎）（作例）

(41) *お前さんなぁ、親父さんのためにも早く立派に成長してくれたらどうなんだ。（A＝お前さん、P＝∅、B＝親父さん）（作例）

予想に反して、(39)-(41)のうち(39)、(40)の「てくれる」文は適格である。しかし、この例がただちに二人称には三人称より視点が置かれやすいということを否定する根拠になるかと言えば、そうではない。なぜなら、(39)、(40)では太郎のみならず一人称（話し手）もまた受益者（B）になっていると考えられるからである。その証拠に、(39)、(40)は、ある出来事に対して話し手が感謝せずにはいられない気持ちを表す表現である「ありがたいことに」と何の問題もなく共起することができる[7]。

(42) ありがたいことにお前が太郎にお金を貸してくれたのか。（A＝お前、P, B＝太郎、B＝私）（作例）

(43) ありがたいことに君が二郎を殴ってくれたから、太郎もすっきりしたみたいだよ。（A＝お前、P＝二郎、B＝太郎、私）（作例）

つまり、(39)、(40)の「てくれる」文では、視点は二人称（お前、君）を差し置いて三人称（太郎）に置かれているのではなく、実は

[7] 「ありがたいことに」が話し手の感謝の気持ちを表すという点については、山橋（1999：25）を参照のこと。

臺灣大學學術期刊資料庫

一人称に置かれているということである[8]。

そこで、(39)、(40)から一人称（話し手）もまた当該の出来事の受益者であるという解釈を排除することを試みよう。

(44) ?お前が太郎にお金を貸してくれたのは実に無駄なことだと思う。（A＝お前、P, B＝太郎）（作例）

(45) ?君が二郎を殴ってくれて、太郎はすっきりしたみたいだけど、僕はやっぱり嫌な気分だ。（A＝お前、P＝二郎、B＝太郎）（作例）

(44)、(45)では、「実に無駄なことだと思う」、「僕はやっぱり嫌な気分だ」などを挿入することで「一人称（話し手）も受益者である」という解釈を排除することを試みた。その結果、これらの例は、不適格とまでは言わないものの、不自然なものになった。

以上、第四節（二）、（三）の観察から、本稿では、「てやる／てくれる」文においては二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいと結論づけたいと思う。

五、構文の拡張と視点

前節（第四節）までの考察で、授与補助動詞「てやる／てくれる」文においては二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいという結論が得られた。これを受けて、最後に本節では、ここまでの考察で得られた結論と、授与本動詞「やる／くれる」文が有する特徴との関係について、構文の拡張という観点からさらに考察を深めていきたいと思う。

実は、「やる／くれる」文においても、二人称には三人称よりも視点が置かれやすいと言うことができる。なぜなら、二人称の方が三

[8] (41)の「てくれる」文も、「親父さん」のみならず一人称（話し手）もまた「お前さんが成長する」という出来事の受益者であるという解釈が得られれば適格となり得るが、与えられた文からそのような解釈を得ることはやや難しい。(41)が(39)、(40)に比べると適格な文とは判断しかねるのはそのためである。

臺灣大學學術期刊資訊網

人称よりも「やる」の主語、「くれる」の与格目的語の位置を占めやすいからである（古賀 2013 も参照のこと）。

(46)（お前が）宿屋へ茶代を五円やるのはいいが、あとで困りゃしないか。（夏目漱石『坊ちゃん』）

(47) 原口さんが（あなたに）招待券をくれたんですか。（夏目漱石『三四郎』）

(48) *宿屋がお前に五円やるのはいいが、

(49) ?あなたが原口という人に招待券をくれたんですか。

なお、次の(50)のように、三人称（太郎）が二人称（あなた）を差し置いて「くれる」文の与格目的語の位置を占める例は珍しくないと考える向きもあるかもしれない。

(50) あなたが太郎にお菓子をくれたんですか。

しかし、この文が適格な文として発話されるのは、太郎が一人称（話し手）にとって「私の家族、親族、友人など」である場合に限られる。実際、次の(51)は不自然であろう。

(51) ?あなたが田中さんところの太郎という子にお菓子をくれたんですか。

したがって、この場合の太郎は「三人称」ではなく「一人称に準ずる存在」として扱われるべきである。つまり、(50)では三人称が二人称を差し置いて与格目的語の位置を占めているわけではない。

さて、益岡（2001）が「本動詞「やる（あげる）」、「くれる」、「もらう」から補助動詞「てやる（てあげる）」、「てくれる」、「てもらう」への拡張が事物の授受から事態の授受への拡張であることは、従来から指摘されてきたことである」（p.26）と述べているように、授与

臺灣大學學術期刊資料庫

補助動詞「てやる／てくれる」文は授与本動詞「やる／くれる」文から拡張したものである。したがって、授与補助動詞「てやる／てくれる」文に認められる二人称には三人称よりも視点が置かれやすいという特徴は、実は構文の拡張の際に「やる／くれる」文から引き継がれたものであると考えることができる。

ただし、構文の拡張の際に「やる／くれる」文の特徴の全てが「てやる／てくれる」文にそのまま引き継がれるというわけではない。たとえば、「やる」と「てやる」、そして「くれる」と「てくれる」とでは話し手の視点のありかが部分的に、あるいは大きく異なる。

改めて述べるまでもなく、「やる」は主語の位置を占めるモノの与え手、「くれる」は与格目的語の位置に置かれるモノの受け手に視点があることを示す。そしてここで、モノの与え手は積極的に授与行為を行う存在であるという意味で広義の動作主であり、一方の受け手はその授与行為を消極的に受け入れる存在であるという意味で広義の被動作主であると考えることにしたい。このように考えるならば、「やる」と「くれる」の視点のありかは次のように捉えなおすことが可能になる。

や　る：動作主、被動作主の二者のうち動作主の側
くれる：動作主、被動作主の二者のうち被動作主の側

一方、第三節で明確にしたように、授与補助動詞「てやる」と「てくれる」の視点のありかは次の通りである。

て や る：動作主、被動作主、受益者の三者うち動作主の側
てくれる：動作主、被動作主、受益者の三者うち受益者の側

つまり、構文の拡張に伴って、「くれる」は被動作主に視点があることを示していたのが、「てくれる」は受益者に視点があることを示すようになった（その受益者は被動作主と同一の存在である場合とそうでない場合とがある）。これは大きな変化である。一方、「やる」と「てやる」はともに動作主に視点があることを示すという点では共通しており、「てやる」は「やる」の特徴を引き継いでいると言うことができる。しかし、「やる」は二者のうち動作主の側に視点があ

臺灣大學學術期刊資料庫

ることを示し、「てやる」は三者のうち動作主の側に視点があることを示すという点では、「てやる」は「やる」の特徴を多少変化させているということになる。

このように、構文の拡張の際にはもとの構文の特徴の全てがそのまま引き継がれるというわけではない。それだけに、二人称には三人称よりも視点が置かれやすいという特徴が「やる／くれる」文から「てやる／てくれる」文に引き継がれたという点はよりいっそう注目に値するものとなる。

五、結び

本稿では、二人称と三人称の間の視点ハイアラーキーについて、すなわち二人称には三人称よりも話し手の視点が置かれやすいと言えるのか否かという問題について考察した。その結果、少なくとも授与補助動詞「てやる／てくれる」文においては、二人称には三人称よりも視点が置かれやすいということが明らかになった。そして、この点で「てやる／てくれる」文は「やる／くれる」文の特徴を引き継いでいると言うことができる。

二人称は三人称よりも上位の人称であるということを考えると、この結果自体は予想の範囲内であり、何も驚くことはないと思われる向きもあるかもしれない。しかし、慎重に考察することなしに無条件に二人称には三人称よりも視点が置かれやすいと考えてはならない。しかるに、先行研究ではこの問題について詳細に検討がなされることはほとんどなかったように思われる。これに対して、本稿では二人称と三人称の間の視点の問題について正面から取り組んだ。

とはいえ、本稿は日本語全体において二人称には三人称よりも視点が置かれやすいと主張するものではない。久野（1978：315）も述べているように、二人称と三人称（久野の言葉では聞き手と第三者）の優位関係は言語や文法項目ごとに異なるはずである。たとえば、「行く／来る」文や「ていく／てくる」文について考察するならばまた違う結果が得られるかもしれない。「てやる／てくれる」文以外

臺灣大學學術期刊資料庫

の文法項目においても二人称には三人称よりも視点が置かれやすいと言えるのか否かについては、今後継続して検討がなされる必要がある。

参考文献

奥津敬一郎（1979）「日本語の授受動詞構文―英語・朝鮮語と比較して―」『人文学報』132、pp.1-27。東京都立大学。

久野暲（1978）『談話の文法』東京：大修館書店。

古賀悠太郎（2013）「「視点」研究における二人称の位置付けについて―「やる／くれる」文、「行く／来る」文を例に―」『日中言語研究と日本語教育』6、pp.37-47。東京：好文出版。

澤田淳（2007）「日本語の授受構文が表す恩恵性の本質―「てくれる」構文の受益者を中心として―」『日本語文法』7(2)、pp.83-100。日本語文法学会。

城田俊（1996）「話場応接態（いわゆる「やり・もらい」―「外」主語と「内」主語―）」『国語学』186、pp.1-14。国語学会。

本多啓(2005)『アフォーダンスの認知意味論―生態心理学から見た文法現象―』東京：東京大学出版会。

益岡隆志（2001）「日本語における授受動詞と恩恵性」『月刊言語』30(4)、pp.26-32。東京：大修館書店。

宮崎清孝・上野直樹（1985）『認知科学選書 1 視点』東京：東京大学出版会。

山口治彦（2002）「直指動詞と対話空間―英語、日本語、そして九州方言をもとに―」『神戸外大論叢』53(3)、pp.51-70。神戸市外国語大学。

山田敏弘（2004）『日本語のベネファクティブ―「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法―』東京：明治書院。

山橋幸子（1999）「「てくれる」の意味機能―「てあげる」との対比において―」『日本語教育』103、pp.21-30。日本語教育学会。

臺灣大學學術期刊資料庫

Shibatani, M. (2000) Japanese Benefactive constructions: Their cognitive bases and autonomy. Kenichi Takami, Akio Kamio and John Whitman (eds.) *Syntactic and Functional Explorations: In Honor of Susumu Kuno.* pp.185-205. Tokyo: Kuroshio Publishers.

Shibatani, M. (2003) Directional Verbs in Japanese. Erin Shay and Uwe Seibert (eds.) *Motion, Direction, and Location in Languages: In Honor of Zygmunt Frajzngier.* pp.259-286. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

臺灣大學學術期刊資料庫